

正常妊婦および HIV 感染母児における α -defensin 発現の推移について

主任研究者：	稲葉 憲之	獨協医科大学病院 病院長
研究協力者：	岡崎 隆行	獨協医科大学 産科婦人科学教室 大学院生
	太田 順子	獨協医科大学 産科婦人科学教室 助教授
	吉田 敦	獨協医科大学 臨床検査医学 講師
	吉田 穂波	ウイミンズ・ウェルネス銀座クリニック 医師
	大島 教子	獨協医科大学 産科婦人科学教室 講師
	西川 正能	獨協医科大学 産科婦人科学教室 助手
	庄田亜紀子	獨協医科大学 産科婦人科学教室 助手
	池田 綾子	獨協医科大学 産科婦人科学教室 大学院生
	深澤 一雄	獨協医科大学 産科婦人科学教室 教授
	渡辺 博	獨協医科大学 産科婦人科学教室 教授
	鄭 建華	ハルビン医科大学 産婦人科 教授
	熊 曙康	大連市婦産医院 助教授
	王 世軍	北京大学人民病院 産婦人科 助教授
	Mugerwa Kida Yvonne	Makerere Medical School
	Deshratn Asthana	University of Miami School of Medicine

研究要旨

抗菌ペプチド α -defensin 1-3 は、in vitro で抗 HIV 作用を有することがわかっているが、生理的状态ではその発現量が少ないため、妊娠・分娩において抗 HIV 作用が発揮されるのに十分な血中濃度が確認されれば、それが HIV 母子感染防御機構に関与している可能性がある。そのため、正常妊婦および褥婦における血中 α -defensin 1-3 濃度の推移や、好中球表面マーカー発現量並びに好中球機能を検索、また、HIV 陽性妊婦の分娩時母体血- 臍帯血ペア検体において α -defensin 1-3 濃度を測定し、HIV 陰性妊婦の結果と比較して母児感染防御機構への α -defensin 1-3 の関与を考察した。

A. 研究目的

好中球アズール顆粒に貯蔵されている抗菌ペプチド α -defensin 1-3 は、in vitro で抗 HIV 作用を有することがわかっている。しかし、生理的状态ではその発現量が少ないため、生体内での効果には消極的な意見が多い。

一方、妊娠や陣痛発来により好中球が活性化され、脱顆粒化が促進されて α -defensin 1-3 の放出が増加するものと考えられるが、正常妊娠における血中 α -defensin 1-3 濃度に関する報告はま

だない。もしも妊娠・分娩において抗 HIV 作用が発揮されるのに十分な血中濃度が確認されれば、 α -defensin 1-3 が HIV 母子感染防御機構に関与している可能性がある。この点を明らかにすることが本研究の最終目的であり、以下について検討した。

- ① 正常妊婦および褥婦における血中 α -defensin 1-3 濃度の推移を明らかにする。
- ② 正常妊婦および褥婦において、好中球表面マーカー CD11b、TLR-4 の発現量並びに好中球機

能を検索し、血中 α -defensin 1-3 濃度との関連を検討する。(CD11b は好中球活性化の指標であり、TLR-4 は細菌由来 lipopolysaccharide に対する感受性やアポトーシスの遅延に関与する)

- ③ HIV 陽性妊婦の分娩時母体血-臍帯血ペア検体において α -defensin 1-3 濃度を測定し、HIV 陰性妊婦の結果と比較して母児感染防御機構への α -defensin 1-3 の関与を考察する。

B. 研究方法

- ①. 正常妊婦 (初期・中期・後期・陣発時)、産褥 (1 週間以内・1 か月)、非妊娠健常者 (対照) から静脈血をヘパリン採血し、血漿中 α -defensin 1-3 濃度を sandwich ELISA kit により当教室で測定する。
- ②. 正常妊婦 (初期・中期・後期・陣発時)、褥婦 (3 日目)、対照者の静脈血から好中球を単離し、flow cytometry にて好中球表面の CD11b 並びに TLR-4 の発現を測定、解析する。
- ③. HIV 陰性/陽性妊婦の分娩時母体血-臍帯血ペア検体中の α -defensin 1-3 濃度を sandwich ELISA kit により測定し、HIV 陰性群と陽性群で相違があるのか検討する。

(倫理面への配慮)

検体採取にあたっては学内倫理委員会の指針に基づく同意書を作成し、インフォームドコンセントを得た。またデータの管理においては、個人情報保護法に基づいて細心の注意をはらった。

C. 研究結果

検体の内訳を Table 1 に示す。各群の平均年齢に有意差はなかった。

各群の血漿中 α -defensin 1-3 濃度 (median \pm SD) を Figure 1 に示す。陣痛発来群の血漿中 α -defensin 1-3 濃度は他群に比し有意に高値 ($p < 0.001$) であり、産褥 1 ヶ月群では対照群よりも有意に高値 ($p < 0.05$) であった。

Figure 2 に示すように、正常妊婦においては血漿中 α -defensin 1-3 濃度と好中球数との間に相関を認めなかった。

対照、正常妊婦および褥婦の好中球における CD11b 並びに TLR-4 の発現強度を Figure 3 に示した。CD11b、TLR-4 とともに陣発群で有意に高値を示した。CD11b は産褥 3 日目でも高値を持続していたが、TLR-4 は産褥 3 日目で非妊娠レベルまで低下していた。

HIV 陽性妊婦の治療経過と、血漿中 α -defensin 1-3 濃度、CD4 数、血中 HIV ウイルス量の推移を Figure 4 に示す。カリニ肺炎の治療が奏効すると α -defensin 1-3 は急激に低下し、HIV 治療によりウイルス量が減少して出産に至るまで HIV 陰性妊婦と同等の値を維持した。本症例は選択的帝王切開にての分娩であったため、陣痛による血中濃度の変化は不明である。

HIV 陰性あるいは陽性妊婦における臍帯血中 α -defensin 1-3 濃度を Figure 5 に示す。HIV 陽性妊婦の妊娠後期母体血中 α -defensin 1-3 濃度は低値であったが、臍帯血中 α -defensin 1-3 濃度は陰性妊婦臍帯血と同等の値であった。

D. 考察

敗血症性ショックや外傷等高度の侵襲によって極めて強い全身性の炎症反応が引き起こされ、正常組織が重篤な障害を受けて多臓器不全に陥るような病態を SIRS (systemic inflammatory response syndrome) というが、重症子癇前症でも同様の病態が認められ、また正常妊娠においてはごく軽度の SIRS が引き起こされていることがわかってきた。その原因は、子宮内に発生した組織片や絨毛細胞が母体血中に流入することと考えられている。陣痛発来によって刺激物質が増加すると maternal SIR は増強する。

Alpha-defensin 1-3 は、ヒトでは promyelocyte の段階で合成され成熟好中球のアズール顆粒に大量に貯蔵される。何らかの刺激によって炎症が起こると、活性化された多数の好中球がそこに動員されて活発に貪食殺菌を行う。その際に α -defensin 1-3 などの抗菌ペプチドが大量に放出される。このことから、妊娠中の血中 α -defensin 1-3 濃度の上昇が説明できる。

正常妊婦の血中 α -defensin 1-3 濃度は対照より高い傾向にあったが有意差はなかった。陣痛発

来群では他の群より有意に高値であり、抗 HIV 作用を発揮できる可能性のある濃度に達していた。また、陣痛発来群で CD11b および TLR-4 の発現が高値となっていたことは、陣痛が好中球活性化を促進し、maternal SIR の亢進をもたらすことを示している。

産褥期にも血中 α -defensin 1-3 濃度は高値であり、産褥 1 ヶ月で対照より有意に高値であった。産褥 3 日目の CD11b の発現は陣発群と同程度の高値を持続して血中 α -defensin 1-3 濃度の変化と似ていた。一方 TLR-4 の発現は産褥 3 日目には対照群レベルまで低下して好中球数と似た変化を示した。これより、血中 α -defensin 1-3 濃度は好中球数には依存せず、好中球の活性化を反映するものと考えられた。

これは、分娩開始から産褥期という細菌感染の起こりやすい時期に生来免疫系が活性化されて母児を感染から保護していることを示唆する結果であった。現在日本では HIV 陽性妊婦の経膈分娩は推奨されていないが、上記の感染防御機構が正常に作動し、かつ血中ウイルス量が十分に低下してさえいれば、経膈分娩が母児感染の原因となる可能性は低いのではないだろうか。

今回 HIV 陽性妊婦の血中 α -defensin 1-3 濃度を 1 例のみ測定できたが、HIV 陰性妊婦とは違って妊娠経過とともに低下する傾向にあった。治療経過を考慮すれば、血中 α -defensin 1-3 濃度がカリニ肺炎の病勢を反映したと考えるのが最も自然であろう。しかし、高濃度の α -defensin 1-3 が抗 HIV 作用を発揮した可能性も否定はできない。また、好中球減少症は AZT の一般的な副作用であり、マウスの好中球分化を抑制したと報告されている。本症例の臍帯血中 α -defensin 1-3 濃度は HIV 陰性妊婦と同等であった。すなわち母児間血中 α -defensin 1-3 濃度勾配が陰性妊婦よりも緩やかであった。母体血中からの移行分に加え、胎児骨髄ではさかんに α -defensin 1-3 が合成されている。胎児骨髄では、胎盤を介して移行した AZT の作用を受けてもお豊富な α -defensin 1-3 の供給が推測される。実際、AZT 治療中の妊婦より出生した児での好中球減少症の報告はない。できるだけ多くの HIV 陽性妊婦検体について血中 α -

defensin 1-3 濃度を測定すると共に、AZT のヒト好中球への作用機序と α -defensin 1-3 放出に対する影響、胎児-胎盤系での α -defensin 1-3 発現状況並びに AZT の作用につき検討を要する。

1. 自己評価

1) 達成度について

HIV 陰性妊婦の血中 α -defensin 1-3 濃度の推移と好中球活性化との関連性については目的を達成したが、HIV 陽性妊婦の検体を入手するのが困難であったため比較検討が十分出来なかった。高濃度の α -defensin 1-3 の好中球機能に対する作用については進行中である。薬剤との関連につき新たな研究課題が見出された。

2) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

HIV 母児感染防御への生来免疫系の関与およびその機序を明らかにすることができれば、学術的かつ臨床的に有意義であろう。特に分娩様式については、現状では帝王切開が推奨されているが、開発途上国では社会的経済的理由から経膈分娩が多い。本研究の結果より、血中ウイルス量が十分低下して生来免疫系が正常に作動していれば、経膈分娩でも母児感染がおこりにくいことが推測された。この点が多数例において証明されれば、母体の負担を軽くすることができるであろう。

3) 今後の展望について

できるだけ多くの HIV 陽性妊婦検体について血中 α -defensin 1-3 濃度を測定すると共に、AZT のヒト好中球への作用機序と α -defensin 1-3 放出に対する影響、胎児-胎盤系での α -defensin 1-3 発現状況並びに AZT の作用につき検討を要する。

E. 結論

Alpha-defensin 1-3 は CAF ではないことが判明したが、直接的な抗 HIV 作用を有することは確実であり、かつ生来免疫系の重要な構成要素であることから、特に妊娠産褥期の全般的な感染防御ならびに母児感染成立との関連において興味深い

物質である。本研究の結果より、血中ウイルス量が十分低下して生来免疫系が正常に作動していれば、経膾分娩でも母児感染がおこりにくいことが推測された。このことは学術的・臨床的・

社会的に極めて意義深い。

F. 知的所有権の出願・取得状況（予定を含む）
なし

Table 1. Characteristics of study groups

Groups	N	Age
Healthy nonpregnant individuals		29.5 ± 3.9*
Men	11	
Women	10	
Normal pregnancy		
1 st trimester	53	29.6 ± 5.2*
2 nd trimester	43	29.7 ± 4.6*
3 rd trimester	52	30.6 ± 5.1*
In delivery	26	32.1 ± 5.3*
Normal puerperium		
<1 week	37	30.8 ± 6.2*
1 month	18	29.0 ± 5.9*

Data are presented as mean ± standard deviation.

* $P = .57$ (one-way ANOVA).

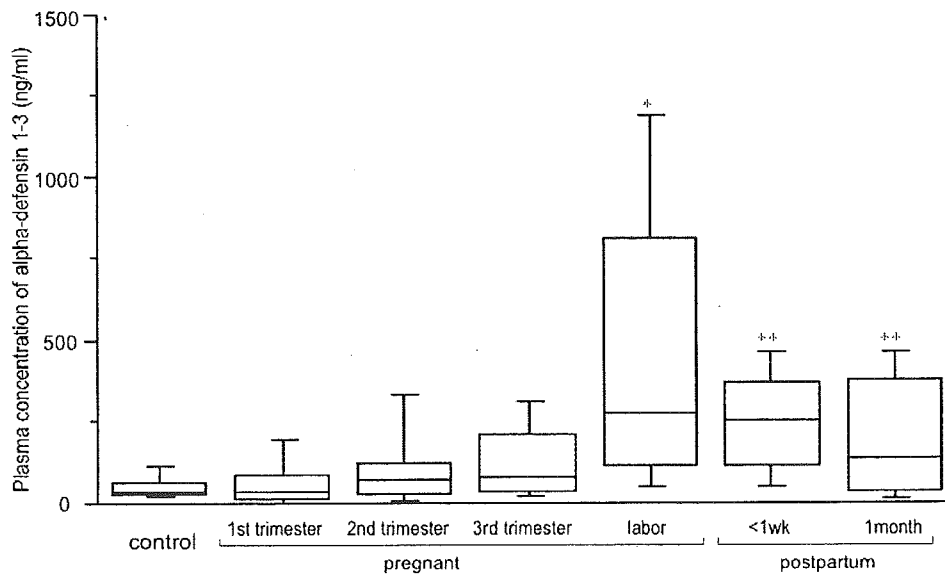


Figure 1. Plasma concentration of alpha-defensins 1-3 in normal pregnancy and postpartum.

Groups were nonpregnant healthy donors (control), normal pregnant women in the first, second and third trimester, and in the first stage of labor, and women in the postpartum (within 1 week and after 1 month from delivery).

*: $p < 0.001$ vs all other groups, **: $p < 0.05$ vs control (Scheffé's F test).

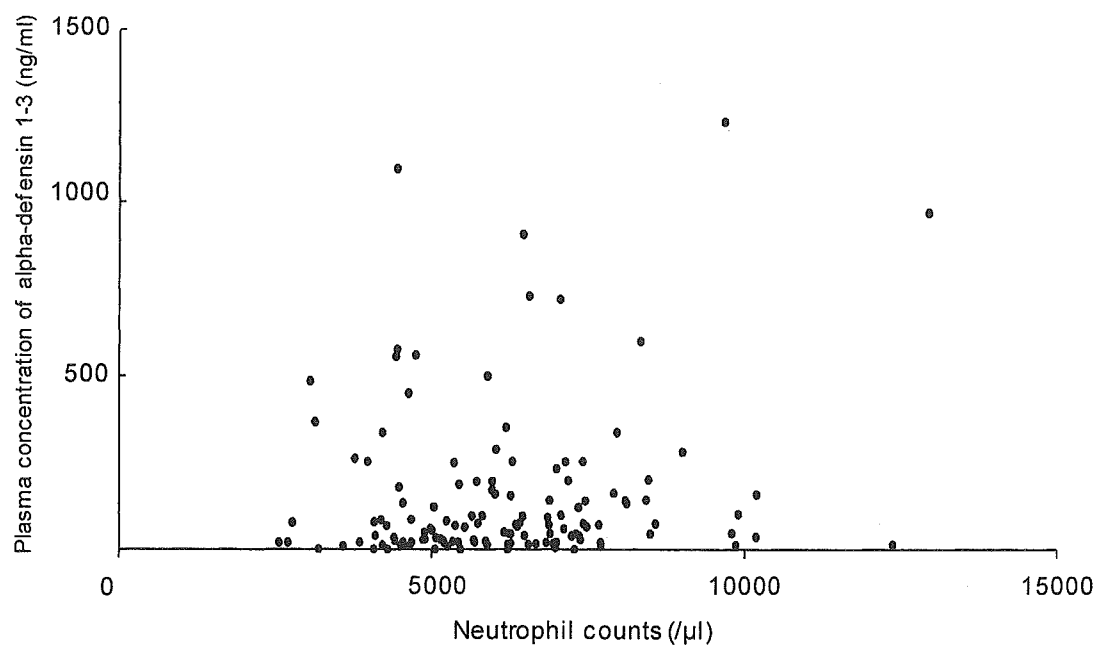


Figure 2. Funnel plot of plasma concentration of alpha-defensins 1-3 and neutrophil counts during and after pregnancy. $p = 0.105$ (Spearman's correlation coefficient by rank test)

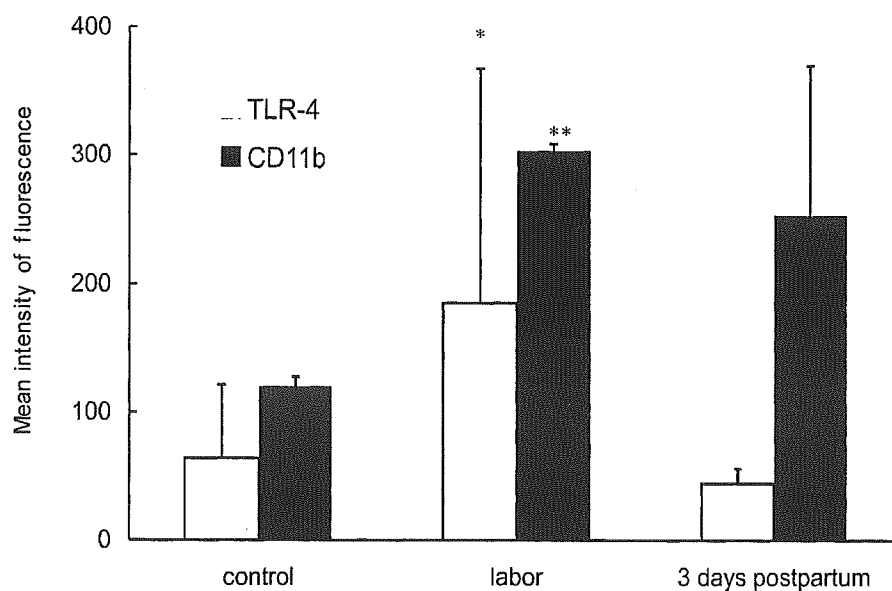


Figure 3. Quantification of surface CD11b and Toll-like receptor (TLR) -4 expression by flow cytometry Groups were nonpregnant healthy donors (control), normal pregnant women in the first stage of labor, and women at 3 days postpartum *: $p < 0.05$ vs all other groups, **: $p < 0.05$ vs control (Scheffé's F test).

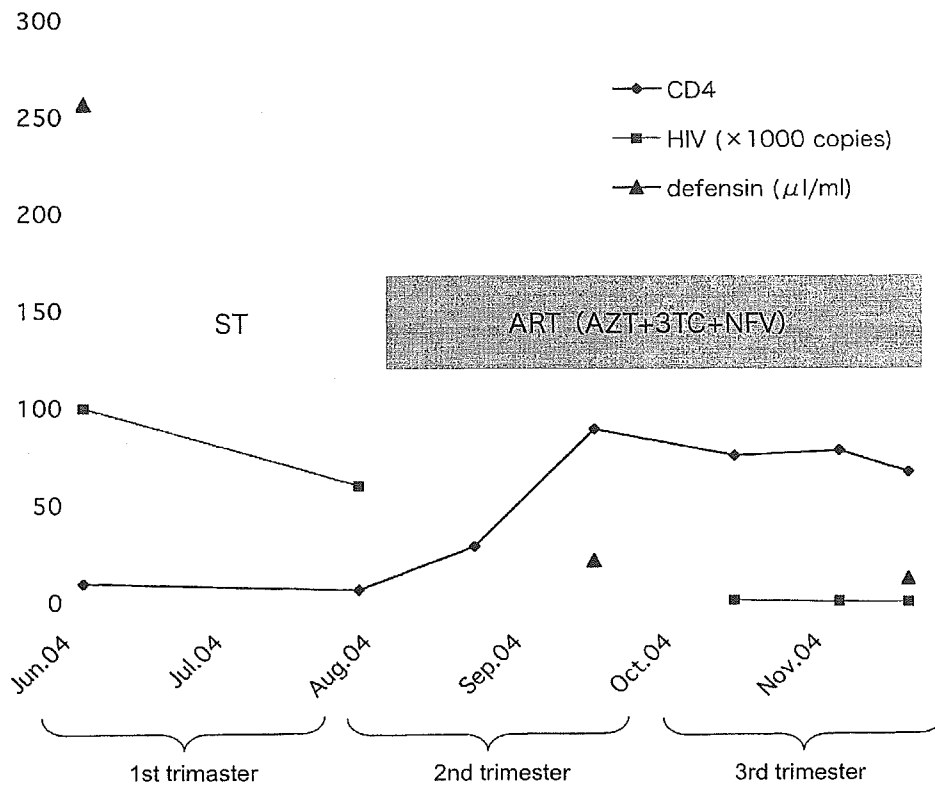


Figure 4. Plasma concentration of alpha-defensin 1-3 in HIV positive woman and her treatment course.

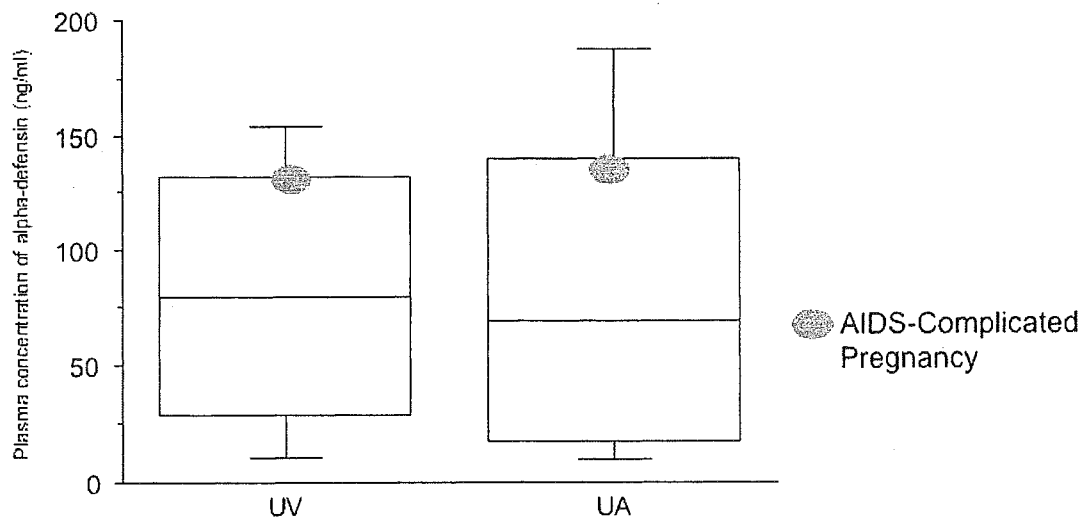


Figure 5. Plasma concentration of α -defensins 1-3 in umbilical blood in normal and AIDS complicated pregnancy

G. 研究発表

- 1) Ishikawa K, Watanabe H, Tadokoro N, Oshima K, Nishikawa M, Inaba N. Outcome of prolapsed chorioamniotic membrane: relationship between the degree of herniation, infection, and pregnancy prolongation. *Am J Perinatol*. 2003; 20(7): 381-9.
- 2) Hayashi M, Ohkura T, Inaba N. Elevation of serum macrophage colony-stimulating factor before the clinical manifestations of preeclampsia *Am J Obstet Gynecol*. 2003; 189(5): 1356-60.
- 3) Hayashi M, Ohkura T, Inaba N. *Horm Metab Res*. Increased levels of serum macrophage colony-stimulating factor before the onset of preeclampsia. 2003 ; 35(10): 588-92.
- 4) Ota Y, Fukasawa I, Shimizu K, Okajima Y, Inaba N. A case of TINOMO vulvar apocrine gland carcinoma with a positive outcome. *Gynecol Oncol*. 2003; 90(3): 601-4.
- 5) Hayashi M, Shibasaki M, Sohma R, Ohkura T, Inaba N, Serum levels of macrophage colony-stimulating factor after cesarean section, vaginal delivery, or laparotomy in normal pregnant women and gynecologic patients, *Acta Obstetrica et Gynecologica Scandinavica*. 2003(82) 7 :597
- 6) Hayashi M, Hoshimoto K, Komine F, Ohkura T, Inaba N:Macrophage Colony-Stimulating Factor Levels in Amniotic Fluid Before and After the Onset of Labor Do Not Differ in Normal Pregnancies, *AJRI* 51:329-335
- 7) Oishi A, Ohmichi M, Takahashi K, Takahashi T, Mori A, Kawagoe J, Otsu R, Mochizuki Y, Inaba N, Kurachi H: Medroxyprogesterone acetate attenuates estrogen-induced nitric oxide production in human umbilical vein endothelial cells, *BBRC* 324:193-198 2004,
- 8) Inaba F, Kawastu T, Masaoka K, Fukasawa I, Watanabe H, Inaba N: Incarceration of the retroverted gravid uterus : the key to successful treatment, *Arch Gynecol Obstet*, 2004
- 9) Zhu K, Fukasawa I, Furuno M, Inaba F, Yamazaki T, Kamemori T, Kosaka N, Ota Y, Hayashi M, Maehama T, Inaba N: Inhibitory effects of herbal drugs on the growth of human ovarian cancer cell lines through the induction of apoptosis. *Gynecologic Oncology* 97: 405-409, 2005
- 10) Zhu K, Fukasawa I, Fujinoki M, Furuno M, Inaba F, Yamazaki T, Kamemori T, Kosaka N, Ota Y, Hayashi M, Maehama T, Inaba N : Profiling of proteins associated with cisplatin-resistance in ovarian cancer cells. *Int J Gynecol Cancer* 15:747-754, 2005
- 11) Inaba F, Kawamata, H Teramoto T, Fukasawa I, Inaba N, Fujimori T: PTEN and p53 abnormalities are indicative and predictive factors for endometrial carcinoma. *ONCOLOGY REPORTS* 13:17-24, 2005
- 12) Imamura J, Tomita S, Ono Y, Inaba F, Yamazaki T, Fukasawa I, Inaba N, Fujimori T: Endometrial adenosquamous carcinoma with osteoclast-like giant cells.

- immunohistochemistry and histogenesis
APMIS 113:140-144, 2005
- 13) Inaba F, Maekawa I, Inaba N: Giant myomas of the uterus. Int J of Gyne Obst88: 325-326, 2005
- 14) Inaba F, Kawatsu T, Masaoka K, Fukasawa I, Watanabe H, Inaba N: Incarceration of the retroverted gravidrterus: the key to successful treatment. Arch Gynecol Obstet 18, :2005
- 15) Yamazaki T, Inaba F, Takada N, Furuno M, Kamemori T, Kosaka N, Ota Y, Fukasawa I, Inaba N: A study of abnormal cervical cytology in pregnant women. Arch Gynecol Obstet. Dec 14, 1-4, 2005
- 16) Kato M, Kubota K, Kita J, Shimoda M, Rokkaku K, Inaba N, Fukasawa I, Honma K: Huge Mucinous Cystadenoma of the Pancreas Developing During Pregnancy. Pancreas 30:186-188, 2005
- 17) 稲葉憲之, 大島教子, 西川正能, 庄田亜紀子: C型肝炎ウイルス 母子感染としてのHCV. 産婦人科の実際(OB/GYN ウイルス感染症外来診療マニュアル 2003)、2003、52(7) 901-906
- 18) 稲葉憲之, 大島教子, 西川正能: 【妊婦の内科診療】セミナー/ポイントと注意点 感染症、Medical Practice、2003、20(9)1553-1557
- 19) 稲葉憲之, 大島教子, 西川正能: 【感染対策】産婦人科医に必要なC型肝炎(ウイルス)とB型肝炎(ウイルス)の知識、産婦人科治療、2003、86(4)844-849
- 20) 北澤正文、中野貴史、河津剛、星野恵子、野口崇夫、三ツ矢和弘、深澤一雄、稲葉憲之: 卵管留水腫と体外受精—卵管留水腫摘出の有用性—、日本受精着床学会雑誌 21(1):112-117
- 21) 望月善子、渡辺博、大石曜、大津礼子、稲葉憲之: 当院における10代妊娠の臨床統計. 思春期学 22:404-409, 2004
- 22) 望月善子、大石曜、大津礼子、稲葉憲之: ターナー症候群における骨量とホルモン補充療法の効果、第14回栃木県骨カルシウム代謝研究会誌、4-5, 2004
- 23) 朱坤、深澤一雄、古野元子、稲葉不知之、山崎龍王、亀森哲、香坂信明、大島教子、太田順子、稲葉憲之: 卵巣癌培養細胞株に対する小柴胡湯の増殖抑制作用、産婦人科漢方研究のあゆみ 21:90-93
- 24) 朱坤、深澤一雄、亀森哲、古野元子、稲葉不知之、山崎龍王、香坂信明、太田順子、稲葉憲之: 卵巣癌培養細胞株に対する小柴胡湯の増殖抑制作用、Dokkyo Journal of Medical Sciences、31(2):175, 2004
- 25) 三浦俊英、五十嵐吉彦、大橋建也、野村文夫、朝長毅、伊藤和枝、望月善子、稲葉憲之、松崎茂、片山勝博: 新規破骨細胞由来酒石酸抵抗性酸性ホスファターゼ(TRACP 5b)活性免疫測定キットの開発とその基礎検討、Osteoporosis Japan12(2):42-45, 2004
- 26) 西川正能、大島教子、渡辺博、稲葉憲之: B型肝炎ウイルス母子感染の予防法の再検討、栃木県医学会会誌、Vol. 34, 2004
- 27) 稲葉不知之、品川泰弘、山崎龍王、橘昌嗣、川又均、藤盛孝博、深澤一雄、稲葉憲之: 通常のパラフィン切片からのRNA抽出およびRT-PCRによる遺伝子発現解析、検査と技術: Vol. 32. no12:1355-1362, 2004
- 28) 大石曜、望月善子、渡辺礼子、稲葉憲之: 骨量減少症および骨粗鬆症に対するビスフォスフォネート製剤の骨量増加作用に関する検討、Osteoporosis Japan 12(3):316-317, 2004
- 29) 大島教子: 肝炎ウイルスの母子感染—特に B, C

- 型肝炎ウイルスについて一、第21回日本産婦人科感染症研究会学術講演会記録集：27-29, 2004
- 30) 本間洋子、高橋尚人、松原茂樹、桃井真里子、鈴村宏、渡辺博、稲葉憲之：総合周産期母子医療センター開設が地域周産期医療に与えた影響の解析、日本周産期・新生児医学会雑誌 40(1)：40-45, 2004
- 31) 藤ノ木 政勝、亀森 哲、深澤 一雄、古野元子、山崎 龍王、稲葉 不知之、朱 坤、香坂 信明、太田 順子、稲葉 憲之：Surface-Enhanced Laser Desorption /Ionization (SELDI) プロテインチップシステムによる卵巣癌患者血清の解析、日本ヒトプロテオーム学会大会要旨集, Vol. 2004 : pp. 74
- 32) 安田真一、深澤一雄、稲葉憲之：卵巣癌のリンパ節転移に関連遺伝子の検索、Cancer Science 95:Suppl271, 2004
- 33) 藤ノ木政勝、亀森哲、深澤一雄、古野元子、山崎龍王、稲葉不知之、朱坤、香坂信明、太田順子、稲葉憲之：プロテオミクスによる、がん研究の新戦略 SELDI プロテインチップシステムによる卵巣癌患者血清の解析、Cancer Science95:Suppl. 62, 2004
- 34) 三浦俊英、五十嵐吉彦、大橋建也、野村文夫、朝長毅、伊藤和枝、望月善子、稲葉憲之、松崎茂、片山勝博：新規破骨細胞由来酒石酸抵抗性酸性ホスファターゼ (TRACP 5b) 活性免疫測定キットの開発とその基礎検討、Osteoporosis Japan 12(2)：264-267, 2004
- 35) 白木和夫、大戸斉、稲葉憲之、藤澤知雄、田尻仁、神崎晋、松井陽、森島恒雄、戸苅創、木村昭彦、日野茂男：C型肝炎ウイルスキャリア妊婦とその出生児の管理ならびに指導方針、日本小児科学会雑誌 109:78-79
- 36) 久野達也、岡崎隆行、庄田亜紀子、多田和美、西川正能、大島教子、田所望、深澤一雄、渡辺博、稲葉憲之：交通事故により胎盤破裂を来したDICを併発した一症例、栃木県産婦人科医報 31(1)：28-30
- 37) 武田信彦、山崎龍王、古野元子、稲葉不知之、亀森哲、香坂信明、坂本尚徳、太田順子、深澤一雄、渡辺博、稲葉憲之：妊婦における子宮頸部細胞診異常の検討、栃木県産婦人科医報 31(1), 22-24. 2004
- 38) 今高城治、杉田憲一、江口光興、鈴村宏、太田順子、渡辺 博、稲葉憲之：HIV キャリア妊婦および出生した児に対する周産期管理、獨協医学会誌、第31巻：203-208, 2004
- 39) 稲葉憲之：19合併症妊娠 A 婦人科疾患：標準産科婦人科学 373-383, 2004
- 40) 稲葉憲之：4. 卵巣、NEW 産婦人科学 2004
- 41) 稲葉憲之：エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック, 112-113, 2004
- 42) 大津礼子、稲葉憲之：婦人科の痛み、外科全科痛み治療マニュアル第2版, 385-402, 2004 三輪書店
- 43) 稲葉憲之、大島教子、西川正能、高見澤裕吉：新生児に対する有効な HB ワクチン接種法—HBV 母子感染予防における出生時ワクチン接種法—、小児科45(9)：1548-1553, 2004
- 44) 稲葉憲之、大島教子、西川正能、庄田亜紀子：B型・C型肝炎：産科と婦人科 第71巻 増刊号：51-55, 2004
- 45) 渡辺博、稲葉憲之：ヘルペスウイルス：臨床婦人科産科 58(1)：61-63, 2004
- 46) 渡辺博、稲葉憲之：周産期感染の管理と対策6 ヘルペスウイルス。臨床婦人科産科 58:61-63, 2004
- 47) 渡辺博、小松富恵：陣痛の促進と抑制。ペエネイタルケア増刊(289)166-171, 2004
- 48) 望月善子 西沢良記 大石曜 大津礼子 三浦

- 俊英 五十嵐吉彦 稲葉憲之:新規に開発された血中酒石酸抵抗性酸フォスファターゼ骨型アインザイム(TRAP-5b)測定キット オステオリンクス「TRAP-5b」による日内及び日間変動と最小有意変化の検討. 医学と薬学 54:895-902, 2005
- 49) 坂本尚徳、深澤一雄、稲葉憲之:子宮癌. 獨協医学会誌 32:189-196, 2005
- 50) 多田和美、根岸正実、保倉 宏、野口崇夫、西川正能、大島教子、星野恵子、田所 望、深澤一雄、渡辺 博、根本猛彦、六角 丘、窪田敬一、稲葉憲之:帝王切開後早期に絞扼性イレウスを発症した一症例. 栃木県産婦人科医報 31:152-154, 2005
- 51) 川村江都子、掛田充克、菊地紀明、沼尾利郎、香坂信明、深澤一雄、稲葉憲之:Paclitaxelにより誘発された間質性肺炎の一例. 栃木県産婦人科医報 32:20-22
- 52) 渡辺 博、稲葉憲之:性腺、胎盤. 臨床検査診断マニュアル改訂第2版 永井書店:P636-654, 2005
- 53) 北澤正文、野口崇夫、星野恵子、中野貴史、河津剛、三ツ矢和弘、深澤一雄、稲葉憲之:体外受精(IVF)及び卵細胞質内精子注入(ICSI)における形態不良胚のみの移植の検討. 日本受精着床学会誌 22:91-95, 2005
- 54) 稲葉憲之、大島教子、西川正能、池田綾子、白木和夫:肝炎ウイルス-とくにB、C型肝炎ウイルスの母子感染対策について-. 産科と婦人科 8:980-985, 2005
- 55) 望月善子、稲葉憲之:肥満と高血圧. 助産雑誌 59:804-808, 2005
- 56) 白木和夫、大戸 斉、稲葉憲之、藤澤和雄、田尻 仁、神崎 晋、松井 陽、森島恒雄、戸苅 創、木村昭彦、日野茂男:C型肝炎ウイルスキャリア妊婦とその出生児の管理ならびに指導指針. 日本小児科学会雑誌 109:78-79 2005
- 57) 稲葉憲之:第2回 大学病院は今 北関東の心臓部として県医師会と緊密な連携を図る「北関東のメディカルセンターを目指して」. JAMIC JOURNAL 4月号:24-25 2005
- 58) 稲葉憲之、大島教子、西川正能、池田綾子、白木和夫:肝炎ウイルスと母子感染対策-とくにB、C型肝炎ウイルスについて-. 産婦人科治療 90:149-155, 2005
- 59) 稲葉憲之:HCV 母子感染率の上昇傾向を再確認. Medical Tribune 4.28, 2005
- 60) 稲葉憲之:B型肝炎ウイルス母子感染予防の見直し. 栃木県医学会会誌 35:81-85, 2005
- 61) 望月善子、大石曜、大津礼子、稲葉憲之:続発性無月経を有する思春期女性の骨量管理. 第15回栃木県骨カルシウム代謝研究会誌 8-9, 2005
- 62) 渡辺 博、西川正能、稲葉憲之:感染症合併妊娠1)ウイルス性肝炎. 産科と婦人科 72:1537-1541
- 63) 渡辺 博、稲葉憲之:診療の基本 医療者間、患者とのコミュニケーション、チーム医療. 日本産科婦人科学会専門医制度 研修コーナー 57:493-497
- 64) 渡辺 博、岡崎友紀、多田和美、田所 望、稲葉憲之:出生前診断における倫理上の問題点1)出生前診断における遺伝カウンセリングの位置づけ-産婦人科医の立場から-. 産科と婦人科 12:1695-1699, 2005
2. 学会発表
- 1) Okazaki T, Shoda A, Tada K, Nishikawa M, Oshima K, Tadokoro N, Ota Y, Watanabe H, Inaba N. Significance of Alpha-Defensin 1-3 in Normal Pregnancy. 11th International Congress on Infectious Diseases, Cancun Mexico, 2004

- 2) Inaba N, Oshima K : Looking back Past 30 Years (The Development of A Labor-, Cost- and Biohazard-saving Regimen for Prevention of Vertical Transmission of Hepatitis B Virus) 11th International Congress on Infectious Disease ,Cancun), 2004. 3.
- 3) Oshima K, Shoda A, Okazaki T, Tada K, Nishikawa M, Tadokoro N, Watanabe H, Inaba N: Clinical significance of HCV vertical transmission. 11th International Congress on Infectious Disease (Cancun) 2004. 3. 4-7.
- 4) Nishikawa M, Oshima K, Shoda A, Okazaki T Okajima Y, Fukasawa I, Watanabe H, Inaba N: A study on the liver function and prognosis of HCV vertically transmitted infants in comparison with HCV-vertically transmitted infants. 11th International Congress on Infectious Disease (Cancun) 2004. 3. 4-7.
- 5) Okazaki T, Shoda A, Tada K, Nishikawa M, Oshima K, Tadokoro N, Ota Y, Watanabe H, Nagata M, Suzuki S, Obara Y, Inaba N: Significance of alpha-defensin 1-3 in normal pregnancy. 11th International Congress on Infectious Disease (Cancun) 2004. 3. 4-7.
- 6) Shoda A, Okazaki T, Tada K, Nishikawa M, Oshima K, Tadokoro N, Watanabe H, Nagata M, Suzuki S, Obara Y, Inaba N: A case of acute retinal necrosis caused by varicella zoster virus during the 3rd trimester. 11th International Congress on Infectious Disease (Cancun) 2004. 3. 4-7.
- 7) Zhu K, Kamemori T, Furuno M, Inaba F, Yamazaki T, Kosaka N, Ota Y, Fukasawa I, Inaba N: Protein expression of human ovarian cancer cell lines and their sublines resistant to cisplatin. 56th Annual Congress of the Japan Society of Obstetrics and Gynecology ,Tokyo, 2004. 4.
- 8) Oishi A, Ohmichi M, Takahashi K, Takahashi T, Watanabe R, Mochizuki Y, Inaba N, Kurachi H: Medroxyprogesterone acetate attenuates the estrogen-induced nitric oxide production in human umbilical vein endothelial cells. The 3rd International Conference on the Biology, Chemistry and Therapeutic Applications of NitricOxide ,Nara, 2004, 5.
- 9) Mitsuya K, Kitazawa M, Kawatsu T, Nakano T, Noguchi T, Inaba N: Effects of serum progesterone concentration on the day of hCG administration to normal fertilization rate and pregnancy rate in long protocol IVF. The International Ovarian Conference 2004, Tokyo, 2004, 5.
- 10) Mochizuki Y, Nishizawa Y, Oishi A, Otsu R, Igarashi Y, Miura T, Inaba N :Day-to-day and diurnal variation of serum tartrate-resistant acid phosphatase type 5b with newly developed TRAP 5b kit and their comparison to other bone resorption markers. 2nd Joint Meeting of European Calcified Tissue Society(ETCS) and International Bone and Mineral Society(IBMS) (Geneve) 6. 25-29. 2005
- 11) Okazaki T, Ikeda A, Shouda A, Nishikawa M, Oshima K, Ota Y, Watanabe H, Inaba N: Plasma Concentration of Alpha-Defensin 1-3 in a HIV-Positive Pregnant Woman 7th

ICAAP (Kobe) 7. 1-5, 2005

- 12) Yamazaki T, Furuno M, Inaba F, Kamemori T, Kosaka N, Sakamoto N, Fukasawa I, Inaba N: Expression in early cervical cancer has a correlation with prognosis. ACOG2005 (Korea) 10. 1-5, 2005
- 13) 渡辺博、岡崎隆行、庄田亜紀子、多田和美、西川正能、大島教子、田所望、稲葉憲之: 妊婦の喫煙が周産期センターにおよぼす影響. 第13回日本禁煙推進医師歯科医師連盟総会, 札幌, 2004. 2.
- 14) 大蔵健義、濱田佳伸、堀中奈奈、安藤昌盛、友部勝美、矢追正幸、星本和種、堀中俊孝、榎本英夫、林 雅敏、深澤一雄、稲葉憲之: 更年期障害に併存する抑うつ症状に対するエストロゲン補充療法 (ERT), 選択的セロトニン再取り込み阻害薬 (SSRI) 療法および ERT+SSRI 併用療法に関する臨床的検討. 第56回日本産科婦人科学会, 東京, 2004. 4.
- 15) 渡辺 博、岡崎隆行、庄田亜紀子、多田和美、西川正能、大島教子、田所望、稲葉憲之: 妊婦の喫煙と母体搬送・新生児 NICU 入院との関連. 第56回日本産婦人科学会総会・学術集会、東京、2004, 4.
- 16) 望月善子、大津礼子、大石曜、大蔵健義、三浦俊英、稲葉憲之: 新規免疫測定法による破骨細胞由来酒石酸抵抗性酸性ホスファターゼ (TRACP5b) 活性測定の有用性に関する検討 第56回日本産婦人科学会総会・学術集会、東京、2004, 4.
- 17) 大津礼子、望月善子、大石曜、大蔵健義、稲葉憲之: ホルモン補充療法施行中に診断された乳癌患者の背景. 第56回日本産婦人科学会総会・学術集会、東京、2004, 4.
- 18) 香坂信明、古野元子、稲葉不知之、山崎龍王、亀森哲、朱坤、太田順子、深澤一雄、稲葉憲之、林雅敏、大蔵健義: 子宮頸部病変における HPV 感染状況と臨床経過. 第56回日本産婦人科学会総会・学術集会、東京、2004, 4.
- 19) 田所望、大竹英樹、西川正能、大島教子、渡辺博、稲葉憲之: X連鎖性水頭症の一卵性双児例における精神細胞接着因子 LI 遺伝子の解析 (その3). 第56回日本産婦人科学会総会・学術集会、東京、2004, 4.
- 20) 深澤一雄、古野元子、稲葉不知之、山崎龍王、亀森哲、香坂信明、朱坤、太田順子、稲葉憲之、林雅敏、大蔵健義: 卵巣粘膜性腺癌と明細胞腺癌における予後不良因子の臨床病理学的検討. 第56回日本産婦人科学会総会・学術集会、東京、2004, 4.
- 21) 亀森哲、古野元子、山崎龍王、稲葉不知之、朱坤、香坂信明、太田順子、深澤一雄、稲葉憲之: 質量分析装置を用いた卵巣癌新規腫瘍マーカーによる診断法の検索. 第56回日本産婦人科学会総会・学術集会、東京、2004, 4.
- 22) 中野貴史、北澤正文、星野恵子、野口崇夫、河津剛、三ツ矢和弘、稲葉憲之: 当院における妊娠初期胎嚢数と妊娠予後の検討. 第56回日本産婦人科学会総会・学術集会、東京、2004, 4.
- 23) 岡崎隆行、庄田亜紀子、西川正能、多田和美、大島教子、田所望、太田順子、渡辺 博、稲葉憲之: 正常妊娠における α -defensin1-3 の血中濃度と血球局在について. 第56回日本産婦人科学会総会・学術集会、東京、2004, 4.
- 24) 西川正能、稲葉憲之、庄田亜紀子、岡崎隆行、大島教子、田所望、岡嶋祐子、深澤一雄、渡辺博、高見澤祐吉: B型肝炎ウイルス母子感染予防にワクチン接種は3回必要か-CDC方式の更なる省略化、経済化を目指して- 第56回日本産婦人科学会総会・学術集会、東京、2004, 4.
- 25) 庄田亜紀子、稲葉憲之、大島教子、西川正能、岡崎隆行、多田和美、田所望、渡辺 博: HCV 母

- 子感染の臨床的意義 — 自然史のエビデンスに基づいて— 第 56 回日本産婦人科学会総会・学術集会、東京、2004、4.
- 26) 山崎龍王、古野元子、稲葉不知之、亀森哲、香坂信明、朱坤、太田順子、深澤一雄、稲葉憲之、林正敏、大蔵健義: 子宮頸癌に対するNACまたはCCR後の子宮全摘術施行症例に関する検討 第 56 回日本産婦人科学会総会・学術集会 東京、2004、4.
- 27) 多田和美、渡辺 博、岡崎隆行、庄田亜紀子、西川正能、大島教子、田所望、稲葉憲之: 在胎 22-25週の新生児の転帰と好ましい分娩様式. 第 56 回日本産婦人科学会総会・学術集会、東京、2004、4.
- 28) 大石 曜、望月善子、大津礼子、大蔵健義、稲葉憲之: 第 3 次救急施設における思春期妊娠の臨床的検討. 第 56 回日本産婦人科学会総会・学術集会、東京、2004、4.
- 29) 三ツ矢和弘、北澤正文、野口崇夫、中野貴史、河津剛、稲葉憲之: Long protocol による conventional IVF において hCG 切り替え日の血中 progesterone 値が正常受精率を含めた妊娠成績に及ぼす影響. 第 56 回日本産婦人科学会総会・学術集会、東京、2004、4.
- 30) 林雅敏、星本和倫、堀中奈奈、安藤昌守、濱田佳伸、友部勝美、矢追正幸、堀中俊孝、根本英夫、深澤一雄、大蔵健義、稲葉憲之: 妊娠中毒症患者の胎盤組織内および末梢血中での M-CSF, G-CSF, TNF- α , TNF-R1 の動態. 第 56 回日本産科婦人科学会、東京、2004、4.
- 31) 濱田佳伸、堀中奈奈、安藤昌盛、杉山紀子、友部勝美、矢追正幸、堀中俊孝、榎本英夫、林雅敏、大蔵健義、稲葉憲之: 妊娠および更年期における胸焼け(胃食道逆流:GERD)の合併に関する検討. 第 56 回日本産科婦人科学会、東京、2004、4.
- 32) 野口崇夫、北澤正文、中野貴史、河津剛、三ツ矢和弘、星野恵子、渡辺 博、稲葉憲之: 双胎妊娠の管理—頸管縫縮術の有用性に対する検討— 第 56 回日本産婦人科学会総会・学術集会、東京、2004、4.
- 33) 渡辺 博、多田和美、田所 望、稲葉憲之: 当センターにおける羊水染色体検査の検討. 第 28 回日本遺伝カウンセリング学会、京都、2004、5.
- 34) 保倉 宏、渡辺 博、池田綾子、岡崎友紀、庄田亜紀子、岡崎隆行、多田和美、西川正能、田所望、稲葉憲之: 当科における喫煙妊婦の実態と周産期医療に及ぼす影響について. 第 29 回栃木県母性衛生学会・学術集会、宇都宮、2004、5.
- 35) 庄田亜紀子、岡崎隆行、池田綾子、西川正能、大島教子、多田和美、田所 望、渡辺 博、稲葉憲之: 娠後期に発症した水痘帯状疱疹ウイルスによる急性網膜壊死の一例. 第 22 回日本産婦人科感染症研究会、名古屋、2004、6.
- 36) 岡崎隆行、池田綾子、庄田亜紀子、西川正能、大島教子、太田順子、稲葉憲之: 正常妊娠における好中球活性の指標としての抗菌ペプチド α -defensin1-3 について. 第 22 回日本産婦人科感染症研究会、名古屋、2004、6.
- 37) 西川正能、池田綾子、岡崎隆行、庄田亜紀子、大島教子、田所 望、岡嶋祐子、深澤一雄、渡辺 博、稲葉憲之: B 型肝炎ウイルス母子感染予防—CDC 方式の更なる省略化、経済化の可能性. 第 22 回日本産婦人科感染症研究会、名古屋、2004、6.
- 38) 池田綾子、西川正能、岡崎隆行、庄田亜紀子、大島教子、田所 望、岡嶋祐子、深澤一雄、渡辺 博、稲葉憲之: HCV 母子感染リスク因子—特に G 型肝炎ウイルス母子感染と比較して. 第 22 回日本産婦人科感染症研究会、名古屋、2004、6.
- 39) 西川正能、大島教子、庄田亜紀子、岡崎隆行、

- 渡辺 博、稲葉憲之: B 型肝炎ウイルス母子感染予防におけるワクチン接種の検討. 第 45 回日本臨床ウイルス学会, 豊中, 2004, 6.
- 40) 岡崎隆行、庄田亜紀子、西川正能、大島教子、稲葉憲之: 正常妊婦における α -defensin 1-3 の血中濃度について. 第 45 回日本臨床ウイルス学会, 豊中, 2004, 6.
- 41) 庄田亜紀子、稲葉憲之、大島教子、西川正能、岡崎隆行、多田和美、田所 望、渡辺博: HCV 母子感染の臨床的意義 — 自然史のエビデンスに基づいて —. 第 45 回日本臨床ウイルス学会, 豊中, 2004, 6.
- 42) 野口崇夫、北澤正文、武田信彦、中野貴史、河津剛、星野恵子、三ツ矢和弘、稲葉憲之: 当院における ART の成績. 日本不妊学会関東地方部会, 東京, 2004, 6.
- 43) 望月善子、大石曜、大津礼子、稲葉憲之: 続発性無月経を有する思春期女性の骨量管理. 第 15 回栃木県骨・カルシウム代謝研究会, 宇都宮, 2004, 6.
- 44) 多田和美、野口崇夫、西川正能、大島教子、田所望、深澤一雄、渡辺 博、六角丘、窪田敬一、稲葉憲之: 帝王切開術後早期に絞扼性イレウスを発症した一例. 第 107 回日産婦関東連合地方部会総会, 東京, 2004, 6.
- 45) 山崎龍王、武田信彦、古野元子、稲葉不知之、亀森 哲、香坂信明、坂本尚徳、深澤一雄、渡辺博、稲葉憲之: 当科における子宮頸部細胞診異常妊婦の検討. 第 107 回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 東京, 2004, 6.
- 46) 望月善子、大石曜、大津礼子、稲葉憲之: 第 2 度続発性無月経思春期女性の骨量に関する検討. 第 77 回日本内分泌学会, 京都, 2004, 6.
- 47) 濱田佳伸、大蔵健義、望月善子、大津礼子、稲葉憲之: SSRI (パロキセチン) が著効を示した重度の月経前不快症候群 (PMDD) の 1 症例. 第 33 回女性心身医学会学術集会・第 17 回日本心理医療諸学会連合大会, 宇都宮, 2004, 7.
- 48) 大蔵健義、濱田佳伸、望月善子、大津礼子、稲葉憲之: 更年期障害を合併したうつ病と閉経後女性に対する ERT, SSRI および ERT+SSRI 併用療法に関する臨床的検討. 第 33 回女性心身医学会学術集会・第 17 回日本心理医療諸学会連合大会, 宇都宮, 2004, 7.
- 49) 多田和美、渡辺 博、西川正能、大島教子、田所 望、新田晃久、鈴木 宏、稲葉憲之: 正期産における分娩週数・分娩様式と新生児一過性多呼吸の発症頻度について. 第 40 回日本周産期・新生児医学会, 東京, 2004, 7.
- 50) 北澤正文、河津剛、三ツ矢和弘、香坂信明、岡崎隆行、大島教子、大津礼子、望月善子、深澤一雄、稲葉憲之: 卵巣嚢腫 (良性) に対する腹腔鏡下手術、膣式手術、それぞれの特性について. 第 44 回日本産科婦人科内視鏡学会, 東京, 2004, 8.
- 51) 北澤正文、三ツ矢和弘、野口崇夫、星野恵子、河津剛、中野貴史、武田信彦、稲葉憲之: IVF-ET, ICSI-ET における形態不良胚のみの移植の検討. 第 49 回日本不妊学会・第 22 回日本受精着床学会総会・学術集会, 旭川, 2004, 9.
- 52) 野口崇夫、北澤正文、武田信彦、中野貴史、河津剛、星野恵子、三ツ矢和弘、渡辺 博、稲葉憲之: 双胎妊娠に対する頸管縫縮術の医療経済学的効果. 第 49 回日本不妊学会・第 22 回日本受精着床学会総会・学術集会, 旭川, 2004, 9.
- 53) 保倉 宏、渡辺 博、池田綾子、岡崎友紀、庄田亜紀子、岡崎隆行、多田和美、亀森哲、西川正能、田所 望、稲葉憲之: 反復発症した子宮内反症の 1 症例. 第 60 回日産婦栃木地方部会, 宇都宮, 2004, 9.
- 54) 太田武雄、三ツ矢和弘、保倉 宏、岡崎友紀、岡崎隆行、庄田亜紀子、多田和美、西川正能、田

- 所望、渡辺 博、稲葉憲之:巨大絨毛膜下血腫 (Breus' mole)による死産の一例. 第 60 回日産婦栃木地方部会, 宇都宮, 2004, 9.
- 55) 川村江都子、掛田充克、菊地紀明、沼尾利郎、香坂信明、深澤一雄、稲葉憲之: Paclitaxel により誘発された間質性肺炎の1例. 第 60 回日産婦栃木地方部会, 宇都宮, 2004. 9.
- 56) 稲葉憲之: B 型肝炎ウイルス母子感染予防法の見直しについて. 第 108 回日産婦関東連合地方部会 幕張, 2004, 10
- 57) 山崎龍王、大塚 進、伊藤英一、稲葉不知之、多田和美、渡辺 博、稲葉憲之: 当院における骨盤位分娩の経験. 第 108 回日産婦関東連合地方部会, 幕張, 2004, 10.
- 58) 多田和美、渡辺 博、保倉 宏、池田綾子、岡崎友紀、庄田亜紀子、岡崎隆行、西川正能、田所 望、稲葉憲之: 帝王切開術における夫の立ち会い. 第 108 回日産婦関東連合地方部会, 幕張, 2004, 10.
- 59) 保倉 宏、渡辺 博、池田綾子、岡崎友紀、庄田亜紀子、岡崎隆行、多田和美、亀森 哲、西川正能、田所 望、稲葉憲之: 反復発症した産褥期子宮内反症の1例. 第 108 回日産婦関東連合地方部会, 幕張, 2004, 10.
- 60) 岡崎友紀、保倉 宏、池田綾子、岡崎隆行、庄田亜紀子、多田和美、西川正能、大島教子、田所 望、渡辺 博、稲葉憲之: 臍帯潰瘍を伴った十二指腸閉鎖の一症例. 第 108 回日産婦関東連合地方部会, 幕張, 2004, 10.
- 61) 岡崎隆行、庄田亜紀子、大島教子、稲葉憲之、一戸貞人、高山直秀: 当科受診妊婦における麻疹抗体保有率の検討. 日本感染症学会東日本地方会, 新潟, 2004, 10.
- 62) 望月善子、渡辺礼子、大石 曜、稲葉憲之: WHI 報告後の HRT 中止症例の検討. 第 19 回日本更年期医学会, 広島, 2004, 10.
- 63) 大石 曜、望月善子、渡辺礼子、稲葉憲之: 更年期障害に対する HRT と SSRI、SNRI の有用性について, 第 19 回日本更年期医学会, 広島, 2004, 10.
- 64) 香坂信明、古野元子、稲葉不知之、山崎龍王、亀森哲、朱坤、太田順子、深澤一雄、稲葉憲之: 子宮頸部円錐切除後における HPV 感染と臨床経過の検 第 42 回日本癌治療学会, 京都, 2004, 10.
- 65) 古野元子、稲葉不知之、山崎龍王、亀森哲、香坂信明、朱坤、太田順子、深澤一雄、稲葉憲之: 婦人科悪性腫瘍における PET の有用性についての検討. 第 42 回日本癌治療学会, 京都, 2004, 10.
- 66) 稲葉不知之、川又均、寺本忠久、深澤一雄、稲葉憲之、藤盛孝博: 子宮内膜癌において PTEN の発現衰弱は臨床病期と相関した. 第 42 回日本癌治療学会, 京都, 2004, 10.
- 67) 望月善子、大石 曜、大津礼子、稲葉憲之: 第 2 度続発性無月経を呈する思春期女性の骨量に関する検討. 第 6 回日本骨粗鬆症学会, 大宮, 2004, 10.
- 68) 渡辺博: シンポジウム1: 母子の希望を地域で支えるシステム作り 総合周産期母子医療センターでの試み. 2004 年日本助産師会関東甲信越静ブロック講習会, 宇都宮, 2004. 10.
- 69) 稲葉憲之: シンポジウム 特別演題「B 型肝炎ウイルス母子感染予防法の見直し」 第 44 回栃木県総合医学会, 宇都宮, 2004. 11.
- 70) 保倉 宏、渡辺 博、池田綾子、岡崎友紀、庄田亜紀子、岡崎隆行、多田和美、西川正能、田所望、稲葉憲之: 当院における喫煙妊婦の実態. 第 32 回獨協医学会, 壬生, 2004, 12.
- 71) 稲葉憲之: 周産期における HIV 感染症—特にアジア・アフリカ地域を中心に—, 第 18 回日本エイズ学会, 静岡, 2004, 12

- 72) 武田信彦、北澤正文、野口崇夫、三ツ矢和弘、稲葉憲之:当院におけるAIHの成績. 第131回日本不妊学会関東連合地方部会(東京) 2. 5, 2005
- 73) 多田和美、渡辺 博、保倉 宏、池田綾子、岡崎友紀、庄田亜紀子、岡崎隆行、西川正能 三ツ矢和弘、望月善子、田所 望、稲葉憲之: 経膈分娩で出産した二分脊椎女性の一例. 第61回日産婦栃木地方部会(壬生)2. 20, 2005
- 74) 岡崎友紀、渡辺 博、池田綾子、保倉 宏、岡崎隆行、庄田亜紀子、多田和美、西川正能、田所 望、中元隆明、金子 昇、稲葉憲之: Greenfield 永久下大静脈フィルター留置後に妊娠出産した一症例. 第61回日産婦栃木地方部会(壬生)2. 20, 2005
- 75) 武田信彦、保倉 宏、岡崎友紀、多田和美、西川正能、香坂信明、大津礼子、北澤正文、深澤一雄、稲葉憲之:MTXにて治療した子宮頸管妊娠の1例. 第61回日産婦栃木地方部会(獨協) 2. 20, 2005
- 76) 多田和美、渡辺 博、保倉 宏、池田綾子、岡崎友紀、庄田亜紀子、岡崎隆行、西川正能 三ツ矢和弘、望月善子、田所 望、稲葉憲之: 経膈分娩で出産した二分脊椎女性の1例. 第61回日産婦栃木地方部会(獨協) 2. 20, 2005
- 77) 渡辺 博、保倉 宏、岡崎友紀、岡崎隆行、庄田亜紀子、多田和美、西川正能、大島教子 田所 望、大蔵健義、稲葉憲之: やせた妊婦と喫煙妊婦、出産体重への影響はどちらが大きいか. 第57回日本産科婦人科学会総会・学術集会(京都)4. 2-5, 2005
- 78) 北澤正文、野口崇夫、三ツ矢和弘、武田信彦、河津 剛、星野恵子、岩崎まり子、正岡 薫 稲葉憲之: 形態不良胚のみの胚移植に終わったIVFおよびICSIの成績. 第57回日本産科婦人科学会総会・学術集会(京都)4. 2-5, 2005
- 79) 望月善子、大石 曜、大津礼子、大蔵健義、稲葉憲之: Bisphosphonate製剤による骨粗鬆症治療時の骨量増加効果と骨代謝マーカーの変動に関する検討. 第57回日本産科婦人科学会総会・学術集会(京都)4. 2-5, 2005
- 80) 西川正能、稲葉憲之、大島教子、岡嶋祐子、池田綾子、岡崎友紀、岡崎隆行、庄田亜紀子 多田和美、田所 望、渡辺 博、高見澤裕吉: B型肝炎(HBV)ウイルス母子感染の“もれ”防止を目指して. 第57回日本産科婦人科学会総会・学術集会(京都)4. 2-5, 2005
- 81) 野口崇夫、北澤正文、武田信彦、三ツ矢和弘、河津 剛、星野恵子、渡辺 博、正岡 薫 稲葉憲之: 当院での不妊治療による双胎妊娠の予後. 第57回日本産科婦人科学会総会・学術集会(京都)4. 2-5, 2005
- 82) 亀森 哲、深澤一雄、藤ノ木政勝、古野元子、稲葉不知之、山崎龍王、朱 坤、香坂信明、太田順子、大竹英樹、林 雅敏、稲葉憲之: 質量分析装置を用いた卵巣がん早期診断法の開発 第57回日本産科婦人科学会総会・学術集会(京都)4. 2-5, 2005
- 83) 大石 曜、大道正英、高橋一広、高橋俊文、阿部亜紀子、川越 淳、大津礼子、望月善子、倉知博久、稲葉憲之: ムロキシプロゲステロンはエストロゲンによる一酸化窒素(NO)産生亢進を衰弱させる. 第57回日本産科婦人科学会総会・学術集会(京都)4. 2-5, 2005
- 84) 山崎龍王、深澤一雄、古野元子、稲葉不知之、亀森 哲、香坂信明、坂本尚徳、太田順子、田中光臣、林 雅敏、稲葉憲之: 早期子宮癌においてp16INK4aの発現はリンパ節転移と関連する. 第57回日本産科婦人科学会総会・学術集会(京都)4. 2-5, 2005
- 85) 多田和美、保倉 宏、池田綾子、岡崎友紀、庄

- 田亜紀子、岡崎隆行、西川正能、大島教子
田所 望、渡辺 博、大蔵健義、稲葉憲之：当
院における胎胞突出症例の管理法. 第 57 回日
本産科婦人科学会総会・学術集会（京都）
4. 2-5, 2005
- 86) 庄田亜紀子、稲葉憲之、大島教子、池田綾子、
岡崎隆行、西川正能、保倉 宏、岡崎友紀
多田和美、田所 望、渡辺 博、高山直秀：わ
が国における周産期麻疹発症の危機－妊婦麻
疹抗体保有率調査結果より－. 第 57 回日本産
科婦人科学会総会・学術集会（京都）
4. 2-5, 2005
- 87) 岡崎隆行、稲葉憲之、太田順子、池田綾子、庄
田亜紀子、大島教子、西川正能、多田和美
田所 望、岡崎友紀、保倉 宏、渡辺 博：妊娠
における血中 α -defensin 発現量の推移とそ
の機能について. 第 57 回日本産科婦人科学会
総会・学術集会（京都）4. 2-5, 2005
- 88) 岡崎友紀、渡辺 博、保倉 宏、池田綾子、岡
崎隆行、庄田亜紀子、多田和美、西川正能
大島教子、田所 望、大蔵健義、稲葉憲之：品
胎妊娠に予防的頸管縫縮術は必要か. 第 57 回
日本産科婦人科学会総会・学術集会（京都）
4. 2-5, 2005
- 89) 池田綾子、稲葉憲之、西川正能、大島教子、岡
嶋祐子、庄田亜紀子、岡崎友紀、岡崎隆行
多田和美、田所 望、渡辺 博、高見澤裕吉：C
型肝炎ウイルス母子感染の臨床的インパクトの再確
認－母子感染率、キャリア化児の肝機能キャリア化
児の予後を比較して－. 第 57 回日本産科婦人
科学会総会・学術集会（京都）4. 2-5, 2005
- 90) 岡崎隆行、池田綾子、庄田亜紀子、西川正能、
大島教子、太田順子、渡辺 博、稲葉憲之：妊
娠経過における、抗菌ペプチド α -
defensin1-3 の発現状況の推移について. 第
79 回日本感染症学会総会学術講演会（名古
屋）4. 14-15, 2005
- 91) 池田綾子、稲葉憲之、大島教子、西川正能、岡
崎隆行、庄田亜紀子、渡辺 博：C型肝炎ウイル
ス母子感染の再検討－母子感染率、キャリア化児
の肝機能、キャリア化児の予後の比較：第 79 回
日本感染症学会総会学術講演会（名古屋）
4. 14-15, 2005
- 92) 庄田亜紀子、稲葉憲之、池田綾子、岡崎隆行、
西川正能、高山直秀：妊婦麻疹抗体価保有率調
査より考えられるわが国の周産期麻疹発症危機.
第 79 回日本感染症学会総会学術講演会（名古
屋）4. 14-15, 2005
- 93) 西川正能、庄田亜紀子、岡崎隆行、池田綾子、
中島大輔、鈴木 宏、長谷衣佐乃、福田 健、渡
辺 博、稲葉憲之：AIDSを発症した妊婦から健常
児を得た一例. 第 23 回日本産婦人科感染症研
究会学術講演会（東京）5. 28, 2005
- 94) 庄田亜紀子、稲葉憲之、大島教子、池田綾子、
岡崎隆行、西川正能、保倉 宏、岡崎友紀、多
田和美、田所 望、渡辺 博、高山直秀：当院に
おける妊婦の麻疹抗体価保有率調査結果につ
いて. 第 23 回日本産婦人科感染症研究会学術
講演会（東京）5. 28, 2005
- 95) 岡崎隆行、池田綾子、庄田亜紀子、西川正能、
大島教子、稲葉憲之：正常妊婦における抗菌ペ
プチド α -defensin の推移とその発現意義につ
いて. 第 23 回日本産婦人科感染症研究会学術
講演会（東京）5. 28, 2005
- 96) 池田綾子、稲葉憲之、西川正能、大島教子、庄
田亜紀子、岡崎隆行、渡辺 博：増加傾向にある
C型肝炎ウイルス母子感染. 第 23 回日本産婦人
科感染症研究会学術講演会（東京）5. 28, 2005
- 97) 望月善子 大石曜 大津礼子 稲葉憲之：ビスフ
ォスホネート治療時における骨代謝マーカー測定
の有用性について. 第 16 回栃木県骨カルシウム
代謝研究会（宇都宮）6. 3. 2005

- 98) 西川正能、庄田亜紀子、岡崎隆行、池田綾子、大島教子、渡辺 博、太田順子、稲葉憲之: 妊娠中に AIDS 発症が確認された妊婦から健常児を得た一例. 第 46 回日本臨床ウイルス学会(福岡)6. 3-4, 2005
- 99) 野口崇夫、北澤正文、武田信彦、三ツ矢和弘、稲葉憲之: 当院における AIH の成績. 第 109 回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会(東京)6. 12, 2005
- 100) 岡崎友紀、保倉 宏、池田綾子、岡崎隆行、庄田亜紀子、多田和美、西川正能、大島教子、田所 望、渡辺 博、稲葉憲之: 十二指腸閉鎖に臍帯潰瘍を伴った 21 trisomy の一症例. 第 109 回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会(東京)6. 12, 2005
- 101) 稲葉不知之、深澤一雄、古野元子、山崎龍王、亀森 哲、香坂信明、太田順子、稲葉憲之: 子宮頸内腺癌Ⅲ期症例の生存、再発に関する検討. 第 109 回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会(東京)6. 12, 2005
- 102) 太田武雄、渡辺 博、保倉 宏、岡崎友紀、庄田亜紀子、古野元子、岡崎隆行、多田和美、西川正能、田所 望、稲葉憲之: 抗 HPA-4 抗体保有妊婦の妊娠・出産一予想された同種免疫性新生児血小板減少症を発症しなかった症例. 第 109 回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会(東京)6. 12, 2005
- 103) 大石 曜、大道正英、高橋一広、高橋俊文、阿部亜紀子、川越 淳、大津礼子、望月善子、倉知博久、稲葉憲之: メドロキシプロゲステロンによる NO 産生抑制の分子構造. 第 78 回日本内分泌学会学術集会(東京)7. 1-3, 2005
- 104) 野口崇夫、渡辺 博、岡崎友紀、岡崎隆行、多田和美、西川正能、大島教子、田所 望、稲葉憲之: 体外受精・胚移植による双胎妊娠に対する予防的シロッカー手術の効果. 第 41 回日本周産期・新生児医学会(福岡)7.10-12,2005
- 105) 多田和美、太田武雄、池田綾子、岡崎友紀、庄田亜紀子、岡崎隆行、香坂信明、西川正能、田所 望、深澤一雄、渡辺 博、稲葉憲之: 子宮頸部円錐切除術後の妊娠に対する影響- LEEP とそれ以外の円錐切除術での比較-. 第 41 回日本周産期・新生児医学会(福岡)7.10-12,2005
- 106) 岡崎友紀、渡辺 博、多田和美、西川正能、大島教子、田所 望、新田晃久、鈴木 宏、稲葉憲之: Delayed interval delivery と 24 週以下の多胎分娩症例の比較. 第 41 回日本周産期・新生児医学会(福岡)7.10-12,2005
- 107) 北澤正文、深澤一雄、西川正能、大石曜、岡崎友紀、望月善子、稲葉憲之: 偶発的に発見された子宮内膜症合併中皮増殖症 mesothelial hyperplasia の一例. 第 45 回日本産婦人科内視鏡学会(宝塚)7. 15-16, 2005
- 108) 香坂信明、古野元子、稲葉不知之、山崎龍王、亀森 哲、朱 坤、太田順子、深澤一雄、稲葉憲之: 広汎性子宮全摘出術における Vessel Sealing System 使用の検討. 第 38 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(和歌山)7. 21-23, 2005
- 109) 亀森 哲、藤ノ木政勝、古野元子、山崎龍王、稲葉不知之、香坂信明、朱 坤、太田順子、深澤一雄、稲葉憲之: 質量分析装置を用いた卵巣癌早期診断法の開発. 第 38 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(和歌山)7. 21-23, 2005
- 110) 古野元子、稲葉不知之、山崎龍王、亀森哲、香坂信明、深澤一雄、稲葉憲之: 婦人科悪性腫瘍における PET-CT の有用性についての検討. 第 38 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(和歌山)7. 21-23, 2005
- 111) 稲葉不知之、深澤一雄、古野元子、山崎

- 龍王、亀森 哲、香坂信明、太田順子、稲葉憲之：子宮内膜症腺癌Ⅲ期症例の生存、再発に関する検討. 第38回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(和歌山) 7. 21-23, 2005
- 112) 山崎龍王、古野元子、稲葉不知之、亀森哲、香坂信明、朱 坤、坂本尚徳、太田順子、深澤一雄、稲葉憲之：早期子宮癌においてP16の発現は、リンパ節転移や再発と相関する. 第38回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(和歌山) 7. 21-23, 2005
- 113) 北澤正文、野口崇夫、三ツ矢和弘、武田信彦、稲葉憲之：過去5年間のAIHの成績と不成功例のその後. 第23回日本受精着床学会総会・学術講演会(大阪)8. 4-5, 2005
- 114) 野口崇夫、北澤正文、河津 剛、星野恵子、三ツ矢和弘、渡辺 博、稲葉憲之：体外受精・胚移植による双胎妊娠の予後. 第23回日本受精着床学会総会・学術講演会(大阪) 8. 4-5, 2005
- 115) 大石 曜、望月善子、大津礼子、稲葉憲之：続発性無月経を呈した思春期女性の骨量に対する検討. 第24回日本思春期学会総会学術集会(埼玉)8. 21-22, 2005
- 116) 望月善子、大石曜、大津礼子、稲葉憲之：妊娠にいたった神経性食思不振症(制限型)の1例. 第34回日本女性心身医学会学術集会(岐阜)8. 28. 2005
- 117) 北澤正文、岡崎隆行、野口崇夫、三ツ矢和弘、香坂信明、深澤一雄、稲葉憲之：当科における腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術の経験. 第62回日産婦栃木地方部会(宇都宮) 9. 4, 2005
- 118) 太田武雄、庄田亜紀子、池田綾子、岡崎友紀、岡崎隆行、多田和美、西川正能、田所望、渡辺 博、稲葉憲之：塩酸リトドリン使用で高度の顆粒球減少症をおこした品胎の一例. 第62回日産婦栃木地方部会(宇都宮)9. 4, 2005
- 119) 大津礼子 望月善子 大石 曜 稲葉憲之：更年期障害に対する三大婦人漢方薬以外の有効処方例の検討. 第25回日本婦人科漢方研究会(東京)9. 11, 2005
- 120) 望月善子 大石曜 大津礼子 三浦俊英 大橋建也 稲葉憲之：新規免疫測定法による血清TRAP5b活性の生物学的変動と最小有意変化に関する検討. 第7回日本骨粗鬆症学会(大阪) 10. 12-15. 2005
- 121) 大石 曜、望月善子、大津礼子、稲葉憲之：ビスフォスフォネート製剤の服薬コンプライアンスに関する検討. 第7回日本骨粗鬆症学会(大阪)10. 13-15, 2005
- 122) 多田和美、渡辺 博、太田武雄、池田綾子、岡崎友紀、庄田亜紀子、岡崎隆行、西川正能、田所 望、稲葉憲之：当科で経験した18トリソミー-34症例の検討. 第110回日産婦関東連合地方部会(松本)10. 15-16, 2005
- 123) 古野元子、深澤一雄、稲葉不知之、山崎龍王、亀森 哲、香坂信明、坂本尚徳、太田順子、稲葉憲之：Intraveno is leiomyomatosisの1例1. 第110回日産婦関東連合地方部会(松本)10. 15-16, 2005
- 124) 北澤正文、岡崎隆行、野口崇夫、三ツ矢和弘、香坂信明、深澤一雄、稲葉憲之：当科における腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術の経験. 第9回栃木県内視鏡外科学研究会(宇都宮) 10. 22, 2005
- 125) 望月善子 大石曜 大津礼子 大蔵健義 稲葉憲之：ビスフォスホネート療法における骨代謝マーカー測定の有用性. 第20回日本更年期医学会学術集会(大宮)11. 12-13, 2005
- 126) 大石 曜、望月善子、大津礼子、稲葉憲之：ビスフォスホネート治療時における骨代謝マ